

授 業 計 画

No.1

授業科目	就職講座		担当教員	田中 範明	クラス	建築設計科1年	
期別	後期	履修コマ数	1 コマ/週	授業形態	講義	単位数	1

授業概要	この科目は、前期のビジネス講座を基盤として、就職活動に必要な正しい履歴書の書き方や面接スキル向上を重点に就職対策を行います。自分をしっかり表現できる自己PR、志望動機などを段階的に整理し、履歴書やエントリーシートをしっかりと記入できることを目的とする。また、グループや個人での面接練習を実施し、就職活動への意識を高めていきます。						
評価方法	成績評価	下記の評価割合に基づいて「A」「B」「C」「D」の4段階評価を行う。 ただし、「D」は不合格とする。					
	評価割合	試験	60 %	課題	0 %	他	40 %
教科書	就職テキスト			副教材および参考文献	オリジナルPPT 適宜プリント、データの配布		

	講 義 計 画	実 施 細 目
第1回	授業オリエンテーション	就職活動の心構え(要点整理)。HOPE II の活用について
第2回	就活準備①	履歴書作成のポイント
第3回	就活準備②	自己PR作成のポイント
第4回	就活準備③	履歴書作成-1
第5回	就活準備④	履歴書作成-2
第6回	就活準備⑤	履歴書総括、まとめ
第7回	就活準備⑥	履歴書用写真撮影。就活準備のまとめ。
第8回	就活準備⑦	面接所作のポイント
第9回	面接ロールプレイ①	グループ面接練習-1
第10回	面接ロールプレイ②	グループ面接練習-2
第11回	面接ロールプレイ③	グループ面接練習-3
第12回	面接ロールプレイ④	個人面接練習-1
第13回	面接ロールプレイ⑤	個人面接練習-2
第14回	面接ロールプレイ⑥	個人面接練習-3
第15回	面接ロールプレイ⑦	個人面接練習-4
第16回	期末試験	授業の振り返り 期末試験の実施

授 業 計 画

No.1

授業科目	スポーツ実習		担当教員	湯浅誠	クラス	建築設計科1年	
期別	後期	履修コマ数	1コマ/週	授業形態	演習	単位数	1

授業概要	この科目は、スポーツに親しむことによって、体を動かすことで爽快感・達成感・他者との連帯感等、精神的な充足も図り、更には、体力の向上・ストレスの発散・生活習慣病の予防など、心身両面にわたる健康の保持増進を目的とする。 また、様々なスポーツを経験することで新しい気付きや、楽しさを発見する。						
評価方法	成績評価	下記の評価割合に基づいて「A」「B」「C」「D」の4段階評価を行う。ただし、「D」は不合格とする。					
	評価割合	試験	0 %	課題	80 %	他	20 %
教科書	なし			副教材および参考文献	なし		

	講 義 計 画		実 施 細 目	
	A種目	B種目	A種目	B種目
第1回	ガイダンス		全体の流れと今後のスケジュール確認	
第2回	バレーボール①	バスケットボール①	トス練習 → 紅白戦	パス練習 → 紅白戦
第3回	バレーボール②	バスケットボール②	トスリレー → 紅白戦	パスリレー → 紅白戦
第4回	バレーボール③	バスケットボール③	レシーブ練習 → 紅白戦	ドリブル練習 → 紅白戦
第5回	バレーボール④	バスケットボール④	レシーブリレー → 紅白戦	ドリブルリレー → 紅白戦
第6回	バレーボール⑤	バスケットボール⑤	サーブ練習 → 紅白戦	シュート練習 → 紅白戦
第7回	バレーボール⑥	バスケットボール⑥	サーブ陣取り合戦 → 紅白戦	シュート対決 → 紅白戦
第8回	バレーボール⑦	バスケットボール⑦	紅白戦	紅白戦
第9回	バレーボール⑧	バスケットボール⑧	紅白戦	紅白戦
第10回	バレーボール⑨	バスケットボール⑨	紅白戦	紅白戦
第11回	バレーボール⑩	フットサル①	紅白戦	パス・ドリブル練習 → 紅白戦
第12回	バレーボール⑪	フットサル②	紅白戦	シュート練習 → 紅白戦
第13回	バレーボール⑫	フットサル③	紅白戦	パス・ドリブル練習 → 紅白戦
第14回	バレーボール⑬	フットサル④	紅白戦	シュート練習 → 紅白戦
第15回	バレーボール⑭	フットサル⑤	紅白戦	紅白戦
第16回	バレーボール⑮	フットサル⑥	紅白戦	紅白戦

授 業 計 画

No.1

授業科目	建築計画各論		担当教員	木村 裕安	クラス	建築設計科1年	
期別	後期	履修コマ数	1 コマ/週	授業形態	講義	単位数	2

授業概要	この科目は2級建築士試験学科 I 計画の建築計画各論の分野、前半部分を学習する。具体的には独立住宅の各種構法と材料、集合住宅に関する分類や特徴を学習する。建築設計製図、及び建築士実技対策の基本知識になる領域であり関連付けた授業構成に配慮してある。またエスキースの課題を通し、住宅建築の間取り作成の基礎知識を養う。						
評価方法	成績評価	下記の評価割合に基づいて「A」「B」「C」「D」の4段階評価を行う。ただし、「D」は不合格とする。					
	評価割合	試験	60 %	課題	20 %	他	20 %
教科書	専門士課程建築計画			副教材および参考文献		確認プリント TAC2級建築士学科新体系テキスト	

	講 義 計 画	実 施 細 目
第1回	主体構造-1	ガイダンス・主体構造の種類と特徴:木造、鉄筋コンクリート造
第2回	主体構造-2	各種構造の特徴:鉄骨造(S造)、鉄骨鉄筋コンクリート造(SRC造)
第3回	建築材料-1	構造材・仕上材:屋根の種類と屋根材料、開口部:窓・扉
第4回	建築材料-2・建築生産	モジュラーコーディネーション・プレファブリケーション他
第5回	住宅-1	独立住宅(配置、平面、プランタイプ等)
第6回	住宅-2	独立住宅(各室の計画・高齢者・障害者の住宅、二世帯住宅)
第7回	住宅-3	集合住宅(分類、住棟タイプ等)
第8回	住宅-4	集合住宅(住棟タイプ、配置等)
第9回	住宅-5	集合住宅(共用部分・住宅地計画)
第10回	建築一般-1	建築計画のあらまし、計画の進め方、構造計画
第11回	建築一般-2	設備計画、避難・防災計画、高齢者・障害者の為の計画
第12回	各部の計画-1	高さに関する寸法、各室の所要面積
第13回	各部の計画-2	通行空間の寸法・階段・扉
第14回	各部の計画-3	バリアフリーデザインの寸法、モジュール
第15回	前期期末試験対策	期末試験の範囲確認、期末試験の過去問題演習
第16回	期末試験	期末試験の実施

授 業 計 画

No.1

授業科目	建築法規 I		担当教員	湯浅 誠	クラス	建築設計科1年	
期別	後期	履修コマ数	1 コマ/週	授業形態	講義	単位数	2

授業概要	この科目は、2級建築士学科試験の1科目として、また建築物を計画する上で法規の知識が必要だということを理解する。また、建築法規に出てくる項目がどのようなものなのか概要を理解する。特に建築基準法の集団規定の部分を学習する。						
評価方法	成績評価	下記の評価割合に基づいて「A」「B」「C」「D」の4段階評価を行う。ただし、「D」は不合格とする。					
	評価割合	試験	70 %	課題	20 %	他	10 %
教科書	建築関係法令集2023 図説やさしい建築法規			副教材および 参考文献		プリント	

	講 義 計 画	実 施 細 目
第1回	集団規定・道路	集団規定の適用範囲、道路の定義、道路関係規定
第2回	用途地域制限	用途地域制限概要、種類、表の見方
第3回	容積率制限	容積率、制限内容、許容容積、計算方法
第4回	建ぺい率制限	建ぺい率、制限内容、許容建築面積、計算方法
第5回	容積率制限・建ぺい率制限	演習問題・解説
第6回	高さ制限 I (概要)	種類、制限概要
第7回	高さ制限 II	道路斜線、緩和規定の一部
第8回	高さ制限 III	北側・隣地斜線制限・緩和規定の一部
第9回	防火指定による構造制限	目的・防火地域・準防火地域内の建築物の制限
第10回	避難施設	避難経路、直通階段
第11回	避難施設	排煙設備、非常用照明装置、非常用の進入口等
第12回	内装制限	内装制限概要、制限を受ける建築物、その仕上げ
第13回	仮設建築物の緩和	応急仮設建築物や現場事務所等の規定
第14回	工事現場の安全管理	仮囲い、根切り、山留め等の規定
第15回	テスト前総復習	第1～14回の総復習
第16回	期末試験	期末試験の実施

授 業 計 画

No.1

授業科目	構造力学 I		担当教員	亀田無限	クラス	建築設計科1年	
期別	後期	履修コマ数	1 コマ/週	授業形態	講義	単位数	2

授業概要	<p>この科目は、建築構造力学の基本を学び、建築物を構成する柱や梁に作用する荷重によって、柱や梁に生じる応力について学習する。前期で学んだ反力計算を基に、応力計算ができるようになることを目的とする。2級建築士試験の力学の問題において、この構造力学 I の学習範囲である反力・応力を理解することは必須のため、プリント演習により解答力を身につけることを目標とする。</p>						
評価方法	成績評価	下記の評価割合に基づいて「A」「B」「C」「D」の4段階評価を行う。ただし、「D」は不合格とする。					
	評価割合	試験	70 %	課題	10 %	他	20 %
教科書	図説やさしい構造力学 学芸出版社		副教材および参考文献		配布プリント		

	講 義 計 画	実 施 細 目
第1回	ガイダンス、前期の復習	ガイダンス、反力計算の復習
第2回	ラーメンの反力計算-1	単純梁ラーメン、片持ち梁ラーメンの反力計算
第3回	ラーメンの反力計算-2	スリーヒンジラーメンの反力計算
第4回	応力について	応力の種類(軸方向力・せん断力・曲げモーメント)
第5回	梁の応力計算-1	片持ち梁の応力、応力図の見方と描き方
第6回	梁の応力計算-2	単純梁の応力、応力図の見方と描き方
第7回	梁の応力計算-3	いろいろな荷重が作用する梁の応力、応力図の見方と描き方1・基礎
第8回	梁の応力計算-4	いろいろな荷重が作用する梁の応力、応力図の見方と描き方2・応用
第9回	ラーメンの応力計算-1	片持ちラーメンの応力、応力図の見方と描き方
第10回	ラーメンの応力計算-2	単純梁ラーメンの応力、応力図の見方と描き方
第11回	ラーメンの応力計算-3	スリーヒンジ(3ピン)ラーメンの応力、応力図の見方と描き方
第12回	ラーメンの応力計算-4	いろいろな荷重が作用するラーメンの応力、応力図の見方と描き方1・基礎
第13回	ラーメンの応力計算-5	いろいろな荷重が作用するラーメンの応力、応力図の見方と描き方2・応用
第14回	期末テスト対策-1	演習問題(力学 I の範囲の復習-1)
第15回	期末テスト対策-2	演習問題(力学 I の範囲の復習-2)
第16回	期末試験	期末試験の実施

授 業 計 画

No.1

授業科目	建築一般構造 I		担当教員	宍倉 良太	クラス	建築設計科1年	
期別	後期	履修コマ数	1 コマ/週	授業形態	講義	単位数	2

授業概要	この科目はまず建築物それぞれに働く力と構造計画の考え方を学び、地盤、基礎、そして前期で制作した軸組模型の復習を含めた木造在来工法を学習のメインとして行うこととする。木造で使用される材料、構造の特徴、各部材の意味、構成の理解を目指し、現在の木造建築の現状についても学んでいく。						
評価方法	成績評価	下記の評価割合に基づいて「A」「B」「C」「D」の4段階評価を行う。ただし、「D」は不合格とする。					
	評価割合	試験	70 %	課題	20 %	他	10 %
教科書	やさしい建築一般構造			副教材および参考文献		参考画像、プリント類	

	講 義 計 画	実 施 細 目
第1回	ガイダンス、建物に働く力	シラバス説明、荷重・外力の種類と特徴等
第2回	地震に対する対策	過去の地震と法改正、設計上の注意事項
第3回	建物全体の構造計画	建築構造の分類
第4回	基礎について	基礎、地盤の特性
第5回	木材(1)	木材の特徴
第6回	木材(2)	性質、木材の比重と強度等
第7回	木質材料	合板、集成材、その他の木質材料の種類とその特徴等
第8回	木構造、構造形式	構造計画の注意点、構造形式の種類とその特徴等
第9回	木造軸組在来工法(1)	地業、基礎、床下換気、アンカーボルト等
第10回	木造軸組在来工法(2)	軸組(土台・柱・横架材)について
第11回	木造軸組在来工法(3)	筋かい、壁について
第12回	木造軸組在来工法(4)	壁量計算
第13回	木造軸組在来工法(5)	小屋組、床組、階段等
第14回	枠組壁工法	枠組壁工法の特徴について
第15回	総復習	テスト範囲の復習、テスト対策
第16回	期末試験	期末試験の実施

授 業 計 画

No.1

授業科目	建築材料		担当教員	内田 浩	クラス	建築設計科1年	
期別	後期	履修コマ数	1 コマ/週	授業形態	講義	単位数	2

授業概要	構造用材料から仕上用材料までという、幅広い建築材料であるが、用途を間違えば大事故も発生する。また地球環境に対する影響や耐震性・耐久性・美観など、さまざまな角度からの検討が必要である。この科目では建築材料を使い分けるために知っておくべき基本的性能・要求性能などの基礎を学ぶ。二級建築士試験の「建築構造」と「建築施工」合格レベルを目指す。						
評価方法	成績評価	下記の評価割合に基づいて「A」「B」「C」「D」の4段階評価を行う。ただし、「D」は不合格とする。					
	評価割合	試験	70 %	課題	20 %	他	10 %
教科書	図説 やさしい建築材料			副教材および参考文献		オリジナルプリント	

	講 義 計 画	実 施 細 目
第1回	建築材料の概要	建築材料の歴史から性能まで
第2回	木材(1)	日本建築と木材・木材の種類と特徴
第3回	木材(2)	木材の強度、構造と水分の影響
第4回	木材(3)	木取り、規格と等級、エンジニアリングウッド
第5回	コンクリート(1)	コンクリートとセメント
第6回	コンクリート(2)	骨材と水、混和材料
第7回	コンクリート(3)	コンクリートの性質
第8回	コンクリート(4)	コンクリートの調合設計1、コンクリートの種類
第9回	コンクリート(5)	コンクリート製品
第10回	鋼材(1)	鋼材(Steel)構造のビッグプロジェクト:明石大橋
第11回	鋼材(2)	鋼材の歴史
第12回	鋼材(3)	製鋼の工程、鋼材の特徴と種類
第13回	鋼材(4)	鋼材の性質、腐食と防食
第14回	鋼材(5)	鋼材の規格、非鉄金属
第15回	まとめ	全体復習と期末試験準備
第16回	期末試験	期末試験の実施

授 業 計 画

No.1

授業科目	建築施工		担当教員	加藤 貴久	クラス	建築設計科1年	
期別	後期	履修コマ数	2 コマ/週	授業形態	講義	単位数	4

授業概要	この科目は、2級建築士・2級建築施工管理技術検定合格を目標とし、そのための基礎知識の習得をねらいとする。建築施工 I 後期では、躯体工事(鉄筋コンクリート・鉄骨・コンクリートブロック・木工事)と、外装・内装・その他各種工事全般の主な現場作業の流れ・工法等を学習する。又、上記資格試験で必ず出題される施工用語・施工機械器具等の知識を学習する。中間試験と期末試験を2回に分けて実施する。						
評価方法	成績評価	下記の評価割合に基づいて「A」「B」「C」「D」の4段階評価を行う。ただし、「D」は不合格とする。					
	評価割合	試験	80 %	課題	20 %	他	0 %
教科書	図説 やさしい建築施工			副教材および参考文献		配布プリント及びスライド	

	講 義 計 画	実 施 細 目
第1回	鉄筋コンクリート工事①	鉄筋工事(鉄筋の材料・加工・組立・かぶり厚さ)
第2回	鉄筋コンクリート工事②	鉄筋工事(鉄筋の定着・継手・圧接)
第3回	鉄筋コンクリート工事③	鉄筋工事(鉄筋工事まとめ・型枠の材料)
第4回	鉄筋コンクリート工事④	型枠工事(型枠の組立 解体)
第5回	鉄筋コンクリート工事⑤	コンクリート工事(コンクリートの材料・種類)
第6回	鉄筋コンクリート工事⑥	コンクリート工事(コンクリートの受入検査)
第7回	鉄筋コンクリート工事⑦	コンクリート工事(コンクリートの打設・養生・欠陥)
第8回	鉄筋コンクリート工事⑧	コンクリート工事(コンクリートのひび割れ対策・まとめ)
第9回	鉄骨工事①	工場作業(鉄骨材料・溶接接合・塗装)
第10回	鉄骨工事②	現場作業(アンカーボルト・ベース仕上)
第11回	鉄骨工事③コンクリートブロック工事①	鉄骨工事(高力ボルト接合) ブロックの材料
第12回	コンクリートブロック工事②	帳壁 コンクリートブロック塀
第13回	木工事①	木造在来軸組工法 (材料・接合金物)
第14回	木工事②	木造在来軸組工法 (継手 仕口 軸組 小屋組 床組)
第15回	木工事③	木造在来軸組工法 (造作工事) 枠組壁工法の特徴
第16回	中間試験	前半の学習範囲(躯体工事まで)で中間試験の実施

	講 義 計 画	実 施 細 目
第17回	防水工事	メンブレン防水 アスファルト防水工事
第18回	防水工事	シート防水 シーリング
第19回	屋根工事	屋根葺き材施工 樋工事
第20回	左官工事	塗り下地 セメントモルタル塗り プラスター・漆喰塗り
第21回	タイル工事	タイル材料とタイル張り工法
第22回	張り石工事	石材の種類 石材表面仕上げ 石材の取付工法
第23回	塗装工事	素地と塗料の組合せ 塗装工法
第24回	建具工事	建具の種類と施工 建具金物
第25回	ガラス工事	ガラスの種類 ガラスのはめ込み構法
第26回	内装・断熱工事	床材の種類 床の施工 壁・天井材の種類
第27回	内装・断熱工事	壁の施工 鋼製下地工事
第28回	内装・断熱工事 ユニット・その他工事	木造住宅・RC造等の断熱 フリーアクセスフロア工事等 ALC サイディング
第29回	設備工事	電気設備工事 給排水衛生設備
第30回	設備工事	空調換気設備 防災・昇降機設備
第31回	施工機械	土工事用機械 各工事の工法と工具
第32回	期末試験	後半の学習範囲(防水工事以降)で期末試験の実施

授 業 計 画

No.1

授業科目	測量概論		担当教員	加藤 貴久	クラス	建築設計科1年	
期別	後期	履修コマ数	1 コマ/週	授業形態	講義	単位数	2

授業概要	この科目では、建築施工分野でも不可欠な測量学の基礎知識を学習する。測量用語・測量数学等の基本的内容から、国家資格である測量士補の問題解説までを網羅して学ぶ。基礎知識を学んだ上で、富士教育訓練センターでの測量実習に備える。						
評価方法	成績評価	下記の評価割合に基づいて「A」「B」「C」「D」の4段階評価を行う。ただし、「D」は不合格とする。					
	評価割合	試験	80 %	課題	0 %	他	20 %
教科書	測量士補 合格ガイド			副教材および参考文献		配布プリント及びスライド	

	講 義 計 画	実 施 細 目
第1回	ガイダンス 測量数学の基礎	測量士補試験について 角度換算 近似値
第2回	測量数学の基礎	巻尺の補正計算 重量平均による最確値の計算
第3回	(第1章)測量法と測量の基準	測量法の概要 公共測量の現地作業
第4回	(第1章)測量法と測量の基準	測量の基準の概要 角度の基準
第5回	(第2章)基準点測量	トータルステーションとGNSS 最確値の計算
第6回	(第2章)基準点測量	距離補正 データコレクタ 方向角計算
第7回	(第3章)水準測量	直接水準測量の概要 標尺の誤差
第8回	(第3章)水準測量	往復観測較差の許容範囲と最確値の計算
第9回	予備コマ	予備コマ
第10回	(第4章)地形測量	等高線 地理情報システム(GIS)
第11回	(第4章)地形測量	デジタルマッピング 数値標高モデル(DEM)
第12回	(第5章)写真測量	空中写真の特性と判読 対空標識
第13回	(第5章)写真測量	空中写真計算問題
第14回	(第6章)地図編集	地図編集 地図記号
第15回	(第6章)地図編集	地形図計算問題
第16回	期末試験	期末試験の実施

授 業 計 画

No.1

授業科目	建築設計製図		担当教員	宍倉 良太	クラス	建築設計科1年	
期別	後期	履修コマ数	2 コマ/週	授業形態	演習	単位数	2

授業概要	<p>この科目は、建物を造る上で必要となる建築図面の描き方の基本を学習する。後期からは鉄筋コンクリート造の平面記号から配置平面図・断面図等まで、2級建築士の実技試験を見据えた1通りの基本図面を描くことで、構造体と内装仕上げの関係を理解する。またエスキース練習を行い、実技試験に向けた作図能力を養う。</p>						
評価方法	成績評価	下記の評価割合に基づいて「A」「B」「C」「D」の4段階評価を行う。ただし、「D」は不合格とする。					
	評価割合	試験	0 %	課題	90 %	他	10 %
教科書	2級建築士試験設計製図テキスト			副教材および参考文献		配布プリント、スライド	

	講 義 計 画	実 施 細 目
第1回	エスキース練習 2 (1)	後期授業内容の説明、エスキース課題の説明
第2回	エスキース練習 2 (2)	ゾーニング、動線検討、間取り作成、開口部
第3回	エスキース練習 2 (3)	家具・設備、外構計画
第4回	図面No.8 RC造1階平面図兼配置図(1)	柱スパン、各部の寸法、構造計画、配置計画と外部動線
第5回	図面No.8 RC造1階平面図兼配置図(2)	レイアウト、敷地、柱の中心線、寸法、柱、壁等
第6回	図面No.8 RC造1階平面図兼配置図(3)	内壁の中心線、内壁の下描き、建具スルーライン等
第7回	図面No.8 RC造1階平面図兼配置図(4)	壁の本描き、建具、階段、室名、断面図の切断位置
第8回	図面No.8 RC造1階平面図兼配置図(5)	家具、設備機器、寸法
第9回	図面No.8 RC造1階平面図兼配置図(6)	各種目地、外構、植栽、図面修正
第10回	図面No.9 RC造2,3階平面図(1)	柱・内壁の中心線、寸法、柱、内壁の下描き
第11回	図面No.9 RC造2,3階平面図(2)	建具スルーライン、壁の本描き、建具、階段
第12回	図面No.9 RC造2,3階平面図(3)	室名、断面図の切断位置、家具、設備機器、庇等
第13回	図面No.9 RC造2,3階平面図(4)	寸法等、図面修正
第14回	エスキース練習 3 (1)	ゾーニング、動線検討、面積検討、間取り作成
第15回	エスキース練習 3 (2)	開口部、家具・設備、外構等
第16回	図面No.10 RC造Y-Y'断面図(1)	基準線、外壁等の下描き、内壁の下描き、躯体線(横・縦)

	講 義 計 画	実 施 細 目
第17回	図面No.10 RC造Y-Y'断面図(2)	内部仕上げ(横・縦)、室名、寸法等、見え掛かり、図面修正
第18回	図面No.10 RC造X-X'断面図(1)	基準線、外壁等の下描き、躯体線(横・縦)
第19回	図面No.10 RC造X-X'断面図(2)	内壁の下描き、内部仕上げ(横・縦)、室名、寸法等
第20回	エスキース練習 4・RC造 (1)	ゾーニング、動線検討、間取り検討、面積検討
第21回	エスキース練習 4・RC造 (2)	間取り作成、開口部作成
第22回	エスキース練習 4・RC造 (3)	家具・設備、外構計画作成
第23回	図面No.11 RC造西・北側立面図 (1)	基準線、柱の下描き、パラペット等、外壁線
第24回	図面No.11 RC造西・北側立面図 (2)	窓、庇、目地、寸法、文字
第25回	図面No.11 RC造東・南側立面図 (1)	基準線、柱の下描き、パラペット等、外壁線
第26回	図面No.11 RC造東・南側立面図 (2)	窓、庇、目地、寸法、文字
第27回	図面No.12 RC造基礎・1階床部分詳細(1)	基準線、寸法、躯体線(横・縦)、仕上げ線(横)
第28回	図面No.12 RC造基礎・1階床部分詳細(2)	仕上げ線(縦)、寸法、文字、仕上げ等、図面修正
第29回	図面No.12 RC造2,3階床部分詳細(1)	基準線、寸法、躯体線(横・縦)、仕上げ線(横)
第30回	図面No.12 RC造2,3階床部分詳細(2)	仕上げ線(縦)、寸法、文字、仕上げ等、図面修正
第31回	図面No.12 RC造屋根部分詳細(1)	基準線、寸法、躯体線(横・縦)、仕上げ線(横)
第32回	図面No.12 RC造屋根部分詳細(2)	仕上げ線(縦)、寸法、文字、仕上げ等、図面修正

授 業 計 画

No.1

授業科目	CAD演習		担当教員	加藤 貴久	クラス	建築設計科1年	
期別	後期	履修コマ数	2 コマ/週	授業形態	演習	単位数	2

授業概要	<p>この科目はフリーウェアという特色から多くの企業で導入が進んでいるJW_CADの操作を学ぶ。一通りのコマンド練習を覚えた後は、施工図を題材とした演習を行い、レイヤ分けの管理の仕方や、図面表現のバリエーションを学習する。合わせてインターネットを活用し、コマンドや部品をダウンロードするテクニックを学習する。</p>						
評価方法	成績評価	下記の評価割合に基づいて「A」「B」「C」「D」の4段階評価を行う。ただし、「D」は不合格とする。					
	評価割合	試験	0 %	課題	100 %	他	0 %
教科書	なし			副教材および参考文献	配布プリント及びデータ		

	講 義 計 画	実 施 細 目
第1回	ガイダンス コマンド練習①	プログラムインストール 画面操作 線の練習
第2回	コマンド練習②	消去・矩形・円・2線・部分消去
第3回	コマンド練習③	分割・コーナー処理・複線・伸縮
第4回	コマンド練習④	図形複写・移動 基本コマンドおさらい
第5回	演習①杭伏図1	レイヤ分けについて 通り芯
第6回	演習①杭伏図2	杭芯線 杭ライン 杭番号
第7回	演習①杭伏図3	文字 寸法
第8回	演習①杭伏図4	杭実測表 杭仕様
第9回	演習②基礎伏図1	通り芯 基礎ライン
第10回	演習②基礎伏図2	躯体ライン(地柱・地中梁) アンカーボルト 断面符号
第11回	演習②基礎伏図3	塗りつぶし 文字 寸法
第12回	演習②基礎伏図4	寸法 構造記号
第13回	演習②基礎伏図5	構造記号 凡例・特記 仕上げ
第14回	予備コマ	予備コマ
第15回	演習③基礎断面図1	通り芯 基準線 基礎ライン
第16回	演習③基礎断面図2	躯体ライン(地柱・地中梁)

	講 義 計 画	実 施 細 目
第17回	階段平面図(233-A1) 作図	各自作図
第18回	通り芯・寸法・通り芯記号(233-B1)作図	課題解説、テンプレート作成
第19回	通り芯・寸法・通り芯記号(233-B1)作図	各自作図
第20回	柱・壁・間仕切壁(233-C1)作図	課題解説、テンプレート作成
第21回	柱・壁・間仕切壁(233-C1)作図	各自作図
第22回	壁と窓(233-D1)作図	課題解説、テンプレート作成
第23回	壁と窓(233-D1)作図	各自作図
第24回	階段平面図(233-A2) 作図	円形配列複写の習得
第25回	通り芯・寸法・通り芯記号(233-B2)作図	直列寸法記入の習得
第26回	柱・壁・間仕切壁(233-C2)作図	鏡像、円弧等の習得
第27回	壁と窓(233-D2)作図	複写(配列)の習得
第28回	233-A3、233-C3作図	時間を意識して2課題実施
第29回	建築CAD検定試験3級対策	階段平面図、通り芯・寸法・通り芯記号 各1課題
第30回	建築CAD検定試験3級対策	柱・壁・間仕切壁、壁と窓 各1課題
第31回	建築CAD検定試験3級対策	階段平面図、通り芯・寸法・通り芯記号 各1課題
第32回	建築CAD検定試験3級対策	柱・壁・間仕切壁、壁と窓 各1課題

授 業 計 画

No.1

授業科目	施工実習		担当教員	担任	クラス	建築設計科1年	
期別	後期	履修コマ数	1 コマ/週	授業形態	演習	単位数	1

授業概要	この科目は、職業実践専門課程の一環として、建築生産分野の職業体験を行う。内容としては、測量実習(レベル・トータルステーション)・鉄筋の結束・鉄筋の圧接・コンクリートの練混ぜ・足場の組立である。現場経験豊富な教官の講義から理論を学び、体を使った実習を通して、より実践的な建築知識を身につける。						
評価方法	成績評価	下記の評価割合に基づいて「A」「B」「C」「D」の4段階評価を行う。ただし、「D」は不合格とする。					
	評価割合	試験	0 %	課題	80 %	他	20 %
教科書	なし			副教材および参考文献		配布資料等	

	講 義 計 画	実 施 細 目
第1回	事前学習	富士教育訓練センターでの実習のあらかし 事前確認事項
第2回	測量学講義	水準測量について トータルステーションについて
第3回	仮設足場講義	枠組足場の名称と組み方 工具の使い方
第4回	鉄筋工事講義	鉄筋の特徴 結束の仕方 圧接の理論
第5回	工事現場の安全	KYミーティング 指差呼称 朝礼のルール
第6回	測量実習①	レベルとスタッフを使用した水準測量実習
第7回	測量実習②	トータルステーションの据え付け実習 距離測定
第8回	足場組実習①	枠組足場組 1段目の施工
第9回	足場組実習②	枠組足場組 2, 3段目の施工 足場解体作業
第10回	鉄筋の結束①	スラブ上での墨出し モチアミ配筋作業
第11回	鉄筋の結束②	梁配筋 スペーサーセット 梁型枠の組立・解体
第12回	鉄筋の圧接①	鉄筋のガス溶断 梁主筋の圧接作業
第13回	鉄筋の圧接②	梁主筋の圧接部の曲げ試験
第14回	コンクリート工事①	フレッシュコンクリートの練混ぜ スランプ試験
第15回	コンクリート工事②	コンクリート圧縮試験 鉄筋の引張試験
第16回	施工実習の振り返り	イベント館の内装実習棟の見学 振り返り作文作成